

2022 年度 神戸大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは神戸大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、加古川中央市民病院皮膚科、甲南医療センター皮膚科、神戸医療センター皮膚科、神戸掖済会病院皮膚科、神戸海星病院皮膚科、神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科、高砂市民病院皮膚科、神戸労災病院皮膚科、三田市民病院皮膚科、市立加西病院皮膚科、神鋼記念病院皮膚科、兵庫県立はりま姫路総合医療センター皮膚科、高槻病院皮膚科、宝塚市立病院皮膚科、神戸市立西神戸医療センター皮膚科、西宮市立中央病院皮膚科、西脇市立西脇病院皮膚科、兵庫県立淡路医療センター皮膚科、兵庫県立加古川医療センター皮膚科、兵庫県立がんセンター皮膚科、淀川キリスト教病院皮膚科を研修連携施設として、また、神戸市立医療センター西市民病院皮膚科、姫路医療センター皮膚科、神戸ほくと病院を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：神戸大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：久保亮治（診療科長）

専門領域：アトピー性皮膚炎、乾癬、母斑・母斑症、遺伝性皮膚疾患

指導医：国定充

専門領域：皮膚腫瘍、遺伝性皮膚疾患

指導医：小野竜輔

専門領域：皮膚腫瘍、光線過敏症

指導医：藤原進

専門領域：皮膚腫瘍

指導医：福本毅

専門領域：皮膚腫瘍、発汗異常疾患

指導医：辻本昌理子

専門領域：光線過敏症

指導医：神保晴紀 専門領域：皮膚腫瘍、尋常性白斑

指導医：織田好子 専門領域：アレルギー、蕁麻疹

指導医：新川衣里子 専門領域：皮膚腫瘍

指導医：今村真也 専門領域：アレルギー

施設特徴：専門外来として、光線過敏症外来、アレルギー疾患外来、皮膚腫瘍外来を設けており、外来患者数は1日平均約120名のぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、兵庫県内の皮膚がん治療センターとなっており、外来手術を除いた年間手術件数は、約1600件のぼる。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：加古川中央市民病院皮膚科

所在地：兵庫県加古川市加古川町本町439番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：山田 陽三（主任科部長）

研修連携施設：甲南医療センター皮膚科

所在地：兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1丁目5-16

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉岡 晶子（診療部長）

研修連携施設：神戸医療センター皮膚科

所在地：兵庫県神戸市須磨区西落合3-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：竹内 聖二（部長）

研修連携施設：神戸掖済会病院皮膚科

所在地：兵庫県神戸市垂水区学が丘1-21-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：佐々木 祥人（部長）

研修連携施設：神戸海星病院皮膚科

所在地：兵庫県神戸市灘区篠原北町3-11-15

プログラム連携施設担当者（指導医）：畠山 真弓（医長）

研修連携施設：神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科

所在地：兵庫県神戸市中央区港島南町2丁目1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：長野 徹（診療部長）

研修準連携施設：神戸市立医療センター西市民病院皮膚科

所在地：兵庫県神戸市長田区一番町2-1-4
プログラム連携施設担当者：中村 維文（副医長）

研修連携施設：神戸労災病院皮膚科
所在地：兵庫県神戸市中央区籠池通4-1-23
プログラム連携施設担当者（指導医）：皿山 泰子（副部長）

研修連携施設：三田市民病院皮膚科
所在地：兵庫県三田市けやき台3-1-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：小坂 博志（医長）

研修連携施設：市立加西病院皮膚科
所在地：兵庫県加西市北条町横尾1-13
プログラム連携施設担当者（指導医）：田中 将貴（診療部長）

研修連携施設：神鋼記念病院皮膚科
所在地：兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目4-47
プログラム連携施設担当者（指導医）：永井 宏（診療部長）

研修連携施設：兵庫県立はりま姫路総合医療センター皮膚科
所在地：兵庫県姫路市神屋町3丁目264番地
プログラム連携施設担当者（指導医）：小川 聡（部長）

研修連携施設：高砂市民病院皮膚科
所在地：兵庫県高砂市荒井町紙町33-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：藤原 規広（部長）

研修連携施設：高槻病院皮膚科
所在地：大阪府高槻市古曽部町1-3-13
プログラム連携施設担当者（指導医）：瀬戸 英伸（診療部長）

研修連携施設：宝塚市立病院皮膚科
所在地：兵庫県宝塚市小浜4-5-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：山本 哲久（主任部長）

研修連携施設：神戸市立西神戸医療センター皮膚科

所在地：兵庫県神戸市西区糀台5-7-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：鷺尾 健（部長代行）

研修連携施設：西宮市立中央病院皮膚科
所在地：兵庫県西宮市林田町8-24
プログラム連携施設担当者（指導医）：西岡 美南（医長）

研修連携施設：西脇市立西脇病院皮膚科
所在地：兵庫県西脇市下戸田652-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：藤川 義明（診療部長）

研修準連携施設：姫路医療センター皮膚科
所在地：兵庫県姫路市本町68
プログラム連携施設担当者（指導医）：福田 均（医長）

研修連携施設：兵庫県立淡路医療センター皮膚科
所在地：兵庫県洲本市塩屋1-1-137
プログラム連携施設担当者（指導医）：吉崎 仁胤（部長）

研修連携施設：兵庫県立加古川医療センター皮膚科
所在地：兵庫県加古川市神野町神野203
プログラム連携施設担当者（指導医）：足立 厚子（診療部長）

研修連携施設：兵庫県立がんセンター皮膚科
所在地：兵庫県明石市北王子町13-70
プログラム連携施設担当者（指導医）：高井 利浩（診療科長）

研修連携施設：淀川キリスト教病院皮膚科
所在地：大阪府大阪市東淀川区柴島1-7-50
プログラム連携施設担当者（指導医）：中村 敬（診療部長）

研修準連携施設：神戸ほくと病院美容皮膚科
所在地：兵庫県北区山田町下谷上字梅木谷37番3
プログラム連携施設担当者（指導医）：長濱 通子（皮膚科・美容皮膚科部長）

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

- 委員長：久保 亮治（神戸大学病院皮膚科教授）
- 委員：国定 充（神戸大学病院皮膚科病院准教授）
 - ：小野 竜輔（神戸大学病院皮膚科講師）
 - ：藤原 進（神戸大学病院皮膚科講師）
 - ：福本 毅（神戸大学病院皮膚科助教）
 - ：神保 晴紀（神戸大学病院皮膚科助教）
 - ：林 女久美（神戸大学病院皮膚科外来看護主任）

- ：山田 陽三（加古川中央市民病院）
- ：吉岡 晶子（甲南医療センター）
- ：竹内 聖二（神戸医療センター）
- ：佐々木 祥人（神戸掖済会病院）
- ：畠山 真弓（神戸海星病院）
- ：長野 徹（神戸市立医療センター中央市民病院）
- ：藤原 規広（高砂市民病院）
- ：皿山 泰子（神戸労災病院）
- ：小坂 博志（三田市民病院）
- ：田中 将貴（市立加西病院）
- ：今泉 基佐子（神鋼記念病院）
- ：小川 聡（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）
- ：中村 維文（神戸市立医療センター西市民病院）
- ：瀬戸 英伸（高槻病院）
- ：西岡 美南（西宮市立中央病院）
- ：山本 哲久（宝塚市立病院）
- ：鷺尾 健（西神戸医療センター）
- ：藤川 義明（西脇市立西脇病院）
- ：福田 均（姫路医療センター）

- : 吉崎 仁胤 (兵庫県立淡路医療センター)
- : 足立 厚子 (兵庫県立加古川医療センター)
- : 高井 利浩 (兵庫県立がんセンター)
- : 中村 敬 (淀川キリスト教病院)
- : 長濱 通子 (神戸ほくと病院)

前年度診療実績：

	1日平均外 来患者数 (人)	1日平均入 院患者数 (人)	局所麻酔年 間手術数(含 生検術)件)	全身麻酔年 間手術数 (件)	指導医数 (人)
神戸大学医学部附 属病院	118	19	813	80	9
加古川中央市民病 院	28	1.1	250	0	2
甲南医療センター	34.2	4.1	261	2	2
神戸医療センター	25.8	4.4	170	0	2
神戸掖済会病院	67	15	872	54	1
神戸海星病院	27.8	1.6	284	9	1
神戸市立医療セン ター中央市民病院	67	11	900	77	2
神戸市立医療セン ター西市民病院	49.8	3.4	123	24	1
神戸労災病院	28.3	4.7	104	22	1
三田市民病院	65	7	150	0	1
市立加西病院	29	0.1	21	0	1
神鋼記念病院	32.8	1.4	176	1	2
兵庫県立はりま姫 路総合医療センタ ー	38.6	3.4	540	12	2
高砂市民病院	39.0	2.1	344	25	0
高槻病院	49.5	2.6	248	6	2
宝塚市立病院	72	8.8	900	14	1
神戸市立西神戸医 療センター	86.0	5.8	901	5	1
西宮市立中央病院	37.5	5.4	472	17	1
西脇市立西脇病院	42.7	2.5	322	8	2
兵庫県立淡路医療	38.2	4.4	375	5	1

兵庫県立加古川医療センター	71	4	505	4	1
兵庫県立がんセンター	28.3	6.7	520	111	1
淀川キリスト教病院	25.0	2.2	332	88	0.5
合計	1100.5	120.7	9583	564	37.5

D. 募集定員： 人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，小論文および面接により決定（神戸大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，応募方法については，応募申請書を神戸大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし，履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

神戸大学医学部附属病院皮膚科
 国定充

TEL：078-382-6134

FAX：078-382-6149

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラム

に掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 神戸大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 加古川中央市民病院皮膚科、神戸医療センター皮膚科、神戸掖済会病院皮膚科、神戸海星病院皮膚科、神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科、神戸労災病院皮膚科、三田市民病院皮膚科、市立加西病院皮膚科、神鋼記念病院皮膚科、兵庫県立はりま姫路総合医療センター皮膚科、高槻病院皮膚科、宝塚市立病院皮膚科、神戸市立西神戸医療センター皮膚科、西宮市立中央病院皮膚科、西脇市立西脇病院皮膚科、兵庫県立淡路医療センター、兵庫県立加古川医療センター皮膚科、淀川キリスト教病院皮膚科、高砂市民病院皮膚科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、神戸大学医学部皮膚科の研修を補完する。兵庫県立がんセンター病院皮膚科では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。
3. 準連携施設である、神戸市立医療センター西市民病院皮膚科、姫路医療センター皮膚科、神戸ほくと病院皮膚科では関連他科での研修として最長1年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は、神戸大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。また、形成外科で研修を行う場合、皮膚科カンファレンス、抄読会には参加することとする。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	大学院	大学院	大学院
b	連携	基幹	大学院	大学院	大学院
c	連携	大学院	大学院	大学院	大学院

d	連携	連携	大学院	大学院	大学院
e	基幹	連携	連携	大学院	大学院
f	基幹	連携	連携	連携	連携
g	基幹	連携	連携	連携	連携
h	基幹	連携	連携	連携	基幹
i	基幹	連携	連携	基幹	基幹
j	連携	基幹	基幹	連携	連携
k	連携	連携	基幹	基幹	連携
l	基幹	連携	連携	準連携	基幹

a～e：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。専門医取得と博士号取得を同時に目指すので多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

f～k：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間以上同一施設もあり得る。

l：研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。

2. 研修方法

1) 神戸大学医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

			手術		手術		
午後	病棟	病棟 カンファレンス 回診 病理	病棟 手術	病棟	病棟		

2) 連携施設

(以下施設名 50 音順)

*加古川中央市民病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	検査 褥瘡回診 病理カンファレンス* 病棟	検査 病理カンファ レンス* 病棟	手術 病理カン ファレンス* 病棟	検査 病理カン ファレンス* 病棟	手術 病理カン ファレンス* 病棟	宿直 *	

※病理カンファレンス：病理医より診断が帰ってきた標本があれば随時検討している

※宿直 月1, 2回を予定

*甲南医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟 外来	病棟 褥瘡回診	病棟 外来	病棟 手術	病棟 外来		宿直※
----	----------	------------	----------	----------	----------	--	-----

※宿直は1～2回/月を予定

*神戸医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 褥瘡回診	病棟 小手術	病棟 カンファレンス	病棟 外来		宿直※

※宿直は2～3回/月を予定

*神戸掖済会病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	褥瘡回診 外来 病棟	手術 病棟	外来 カンファレンス 病棟	処置外来 病棟	処置外来		※当直

※宿直は1回/2か月を予定

*神戸海星病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来 手術	外来 病棟	
午後	外来 病棟 外来	外来 病棟 カンファレンス	外来 病棟 外来	外来 病棟	病棟 手術	外来 病棟	

※宿直は1から3回／月を予定

*神戸市立医療センター中央市民病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。神戸大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術 手術	外来 褥瘡回診	手術 手術	外来		
午後	病棟 外来	手術 カンファレンス	病棟 外来	手術	病棟 外来		

※宿直は2回／月を予定

*神戸労災病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆

頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	手術 回診 カンファレンス	病棟 外来 手術	病棟 外来		

※宿直は2～3回／月を予定

* 三田市民病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	外来	外来	外来	外来		
午後	手術 病棟	病棟 カンファレンス	病棟 外来 カンファレンス	病棟 外来	病棟		

※宿直は1～2回／月を予定

* 市立加西皮膚科

皮膚科学会および主研修施設である神戸大学皮膚科の研修プログラムに基づき，指導医の元に，皮膚科一般疾患や救急・重症疾患に自力で対応ができ，検査・処置・手術方法を習得したうえで基本的な皮弁や植皮術も行える事を目標とする。また院内の各種講習会や皮膚科関連の学会に参加して他科も含めた幅広い知識を得る。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日

午前	手術	外来	外来	外来	外来		
午後	検査 処置 手術	褥瘡回 診	検査 処置 手術	手術室で の手術	検査 処置 手術 病理組織 検討		

※宿直は1～2回／月を予定

*神鋼記念病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚疾患の基本的な診断治療を学ぶと共に第一線の救急医療，処置，手術法を習得し、他科との密な連携のもと、皮膚科医としての役割を身につける。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	検査 病理カンファ レンス* 病棟	検査 病理カンファ レンス* 病棟	検査 病理カンファ レンス* 病棟	手術 病理カンファ レンス* 病棟	検査 病理カンファ レンス* 病棟	宿直*	

※病理カンファレンス：病理医より診断が帰ってきた標本があれば随時検討している

※宿直 月1, 2回を予定

*兵庫県立はりま姫路総合医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の急性期疾患や難治な慢性疾患等，幅広い皮膚疾患に対する診察，検査，処置，投薬，手術法を習得する。カンファレンス，抄読会に週1回参加する。皮膚科学会主催の必須の

講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行い、一編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土 (第 1, 3)	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来 病棟	
午後	外来 病棟 手術	外来 病棟 病棟カン ファレン ス	外来 病棟 手術	手術 病棟 病理カン ファレン ス	外来 病棟 抄読会		

※宿直は 1~2 回/月を予定、宅直は 10 回/月を予定

* 高槻病院皮膚科 :

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 手術	病棟 手術 カンファレンス	病棟 手術	病棟		

* 宝塚市立病院 :

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、

手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 手術	病棟 外来	宿直※	

※宿直は 2 回／月を予定

* 神戸市立西神戸医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。カンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟 カンファレンス	外来 病棟	病棟 手術	外来 病棟	外来 病棟		

※宿直は 1.5 回／月を予定

* 西宮市立中央病院皮膚科：

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	病棟	外来	外来		
午後	手術	外来	褥瘡回診	外来	手術		

	病棟	当直※1	カンファレンス		病棟	日当直※2	
--	----	------	---------	--	----	-------	--

※1 1回/月、

※2 1回/2か月、を予定。

***西脇市立西脇病院**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来小手術	病棟 入院手術	外来手術 病理カンファレンス	病棟 外来小手術	病棟 手術		

***兵庫県立淡路医療センター皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来		
午後	病棟 外来 NST回診	病棟 処置 検査	病棟 手術 カンファレンス	病棟 褥瘡回診	病棟 処置 検査		宿直※

※宿直は1回/月を予定

***兵庫県立加古川医療センター皮膚科：**

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、

手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 外来生検	外来	外来	外来 外来生検		
午後	病棟 特殊外来	病棟 カンファレンス	病棟 手術	病棟 外来特殊 処置	病棟 手術		

※宿直は2回程度/月を予定

*兵庫県立がんセンター皮膚科：

皮膚悪性腫瘍患者の手術療法、化学療法、緩和医療を中心に習得する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来		
午後	病棟 病理検討	病棟回診 カンファレンス	手術	手術 病理検討	病棟 小手術		

宿直は月2回程度を予定

*淀川キリスト教病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、アレルギー疾患・アトピー性皮膚炎への対応を習得する。形成外科の手術に参加し、手術患者の担当となり、手術の手技・術後管理を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表（土曜・平日で週休2日分のオフ消化）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来 病棟	

午後	病棟 外来	病棟 外来 大学カンファ レンス	病棟 外来 手術	病棟 褥瘡回診	病棟 外来 手術		
----	----------	-------------------------------	----------------	------------	----------------	--	--

(50音順)

*高砂市民病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	手術	検査	手術	フットケ ア外来	検査		

※宿直は約1回/月を予定

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

*神戸市立医療センター西市民病院皮膚科、姫路医療センター皮膚科、神戸はくと病院美容皮膚科では現在研修制度が確立出来ていないが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識を

より深化するため専門研修の後半に 1 年間に限り、1 人での診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設(神戸大学医学部附属病院、兵庫県立加古川医療センター)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 2年目：主に神戸大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 3～4年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
4年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、

生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラ

ム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。

3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における日当直はおおむね 2～3 回/月程度である。

2022年4月1日

神戸大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
久保 亮治